

1. 評価結果概要表

作成日 2009年10月8日

【評価実施概要】

| | | | |
|---------------|---------------------------------------|-------|-------------|
| 事業所番号 | 2690600032 | | |
| 法人名 | 医療法人 三幸会 | | |
| 事業所名 | ケアサポートセンター 宝ヶ池 | | |
| 所在地 (電話番号) | 京都市左京区上高野薩田町11-1 (電話) 075-702-2051 | | |
| 評価機関名 | 社団法人京都ボランティア協会 | | |
| 所在地 | 京都市下京区河原町五条下る東側 ひと・まち交流館 京都1階 | | |
| 訪問調査日 | 平成21年8月5日 | 評価確定日 | 平成21年10月10日 |

【情報提供票より】(平成21年 7月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|--------------|--------------------------|-----|
| 開設年月日 | 平成 20年 7月 1日 | | |
| ユニット数 | 1 ユニット | 利用定員数計 | 9 人 |
| 職員数 | 15 人 | 常勤 5人, 非常勤 8人, 常勤換算 7.5人 | |

(2) 建物概要

| | | |
|------|-------|------|
| 建物形態 | 併設 | 新築 |
| 建物構造 | 木造り | |
| | 2階建ての | 2階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | |
|---------------------|------------------|----------------|-----------|
| 家賃(平均月額) | 69,000 円 | その他の経費(月額) | 実費 円 |
| 敷金 | 無 | | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 有(300,000円) 無 | 有りの場合 償却の有無 | 無 |
| 食材料費 | 朝食 | 350 円 | 昼食 550 円 |
| | 夕食 | 750 円 | おやつ 150 円 |
| | または1日当たり 円 | | |

(4) 利用者の概要(月 日現在)

| | | | |
|-------|-----------|---------|---------|
| 利用者人数 | 9 名 | 男性 2 名 | 女性 7 名 |
| 要介護1 | 1 名 | 要介護2 | 5 名 |
| 要介護3 | 3 名 | 要介護4 | 0 名 |
| 要介護5 | 0 名 | 要支援2 | 0 名 |
| 年齢 | 平均 83.5 歳 | 最低 76 歳 | 最高 92 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|---------------|
| 協力医療機関名 | 医療法人 寿尚会 洛陽病院 |
|---------|---------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

霊峰比叡山が正面に聳え立ち、木々の1本1本までも、グループホームの部屋の窓から一望できる。この光景が気に入り、入所を決めた利用者がおられる。三宅八幡宮や、食材等を求めにぶらり出かけられる商店街も近い。利用者や職員で食材を吟味しながら買い求め、味付けに至るまで、腕を奮われた手作りの食事は、食べ易くおいしい。理念の「ご利用者の行えることが、少しでも増えるように、何でも一緒に行い支援していきます。」が調理・歩行・排泄・外出等の日常生活場面で、実践できている。ケアプランに沿った日々を記す記録様式の改善等、自立支援に向けたチャレンジ精神も旺盛である。更に特筆すべき点は、広報紙の毎月500部の発行と、近隣配布。日々3~5組の来訪者、中学生の体験学習の受入れ、ホームの社会貢献の一環とした地元「すこやか学級」へのボランティア参加等、開設1年にして、地域に密着した事業展開は目を見張るものがある。

【重点項目への取り組み状況】

| | |
|-------|--|
| 重点項目① | 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) |
| | 今回初めての受審である。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 日頃、家族からの話も含め、まずは管理者が自己評価のたたき台をつくり、職員(常勤・非常勤)全員で検討しまとめている。 |
| 重点項目② | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2ヶ月毎に開催し、毎回家族全員に参加案内を出し、会議録を配布している。事業報告の緊急処置報告に対し、家族からAED購入の申し出があった。家族が当事者意識をもち、施設の運営への積極姿勢が窺える。地域代表として、学区社会福祉協議会会長、地域包括支援センター職員が参加されている。地域の福祉情報の提供、連携への助言、紹介等、極めて地域に密着した情報の交換がなされている。 |
| 重点項目③ | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 毎月、利用者の写真2枚と直筆で利用者の暮らしぶりや家族に会いたい思いを代弁した手紙を広報紙に同封して発送している。預かり金の説明・報告、容易に来訪いただけない家族に対し、原則来訪いただき情報交換を重視している。苦情については、時間を十分かけ、聞き、説明することを原則に職員に指導している。 |
| 重点項目④ | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入。地域の祭りや小学校の運動会を見学し、中学校のチャレンジ体験を受け入れている。広報紙を毎月500部発行し、地域の回覧板に乗せてもらい、スーパー・郵便局等に配布している。その成果か、毎日3~5組の来客がある。地域社協主催の「すこやか学級」には、地域貢献の目的で職員をボランティアとして派遣している。 |

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|---|---|------|----------------------------------|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 法人の理念を踏まえ、事業所の理念は「ご利用者の行えることが、少しでも増えるように、何でも一緒に行い支援していきます」、「ご家族・事業所での些細な出来事でも、お話しできるような関係が出来るように努めていきます」他である。これらの理念は、管理者が法人理念を踏まえ提案し、職員全員で決めた。 | | |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 理念の実践例として、家庭では家事を危険等の理由で、一切していなかった利用者がホームで、自慢の調理の腕をふるっている。また研修に来た学生が利用者として洗濯物を干しながら、話しをし「こうして干せばしわにならない」等、生活の知恵を得たとの報告があり、理念に向けた取組が窺える。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 町内会加入。地域の祭りや小学校の運動会の見学。中学校のチャレンジ体験受け入れなど地域とのふれあいに努力している。広報紙毎月500部発行、地域の回覧板に乗せ、スーパー・郵便局等に配布するなど、その成果が毎日3~5組の来客がある。地域社協の「すこやか学級」に、「すこやか学級ボランティア」を地域貢献目的に派遣している。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 今年初めての受審である。日頃の家族から聞いた話などを入れて、管理者がたたき台をつくり、職員(常勤・非常勤)全員で検討しまとめたものである。 | | |
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 参加メンバーは、地区社協会長、地域包括センター職員、利用者の家族、職員である。2ヶ月毎に開催し、毎回家族全員に参加案内を出し、会議録も配布している。事業報告で、急性心不全で利用者死去の報告に、家族から共同でAED購入の申し出があった。家族は当事者意識をもち、施設の運営に積極的に関わろうとの姿勢で臨まれている。 | | |

ケアサポートセンター宝ヶ池

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------|----|--|---|------|--|
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 毎月、行政区の介護保険課主催、地区医師会も構成メンバーである事業者連絡会がある。当会では介護保険サービス申請書を共同作成するなど積極的な取組がなされており、ホームもメンバーとして参加している。他に行政との共催で、「認知症サポーター研修」を計画している。この研修には利用者も参加いただく予定である。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 毎月、利用者の写真2枚と直筆で利用者の暮らしぶりや家族に会いたい思いを代弁した手紙を広報紙に同封し発送。家族への報告は、原則来訪時に預かり金の説明・報告等行うこととしている。なかなか来訪いただけない家族へは個別対応をしている。 | | |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 苦情マニュアルがあり、苦情は利用時の説明の際の資料と共に、何事も気軽に話しをして欲しい、相談や申し出があればしてほしいと説明している。職員にも周知徹底を図り、指導しており苦情は特に寄せられていない状況にある。 | ○ | 日常的に、詳細な配慮のもとにサービスが行われ、寄せられた苦情は開設後2・3件である。しかし事業所の理念を考え、家族の意見、不満、苦情はポジティブ情報として、運営に活かさないか、家族の意向の収集に意図的な取組みを期待する。 |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | この1年間では、ホームのケアプラン作成者が法人内移動をされている。ほか正職員が家庭事情で1名退職。利用者には、事前に説明し、特に混乱は無かった。当事業所では、職員異動による利用者への影響防止策として、小規模多機能事業所との相互の勤務体制をしき職員・利用者との馴染みの関係保持策とされている。 | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 年間研修計画があり、常勤非常勤ともに研修に参加できる。また、管理者は、必要に応じて職員に研修参加を勧めている。研修は、勤務扱いである。外部研修は、職員会議での伝達研修があり、会議に参加できなかった職員には、プチ研修(3人ぐらい)で全員に伝わるシステムが確立されている。ケアマネの通信講座の費用は全額法人負担である。 | | |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 毎月、行政区事業所連絡会に参加。管理者の代わりに職員に参加させることで、職員は他事業所と顔馴染みになり、学ぶことも多い。また、他事業所見学も活発で、庭に畑を作るアイデアは、他の事業所の見学から取り入れられた。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|--|--|------|----------------------------------|
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 開設1ヶ月で定員が満たされた。利用に当たっては利用者・家族の十分時間をかけた面接。馴染みの職員が出来るよう管理者、職員の複数人での面接。当ホーム以外に適切な資源がないかの検討と提案など試みている。利用者の家族関係を大切にしている例として、京都・東京・カナダに住む3姉妹に施設が中継となり、連絡を取り合った事例もある。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 入浴介助をしながら、満州で子どもに授乳していた頃のこと、苦労して子育てをしたこと等の体験をしみじみと話され、聞かせてもらう。買い物同行の折には、おいしいキャベツの見分け方、食材の賢い買い方を利用者から教わる。料理の仕方等利用者の知恵袋に感心させられている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 散歩の途中で、花畑を発見した利用者は、その花畑を見たい思いが外出の目的に。ピリヤードに行きたいと漏らされた利用者には同行し、職員は球を打つ巧みに利用者の隠れていた一面にきづく。膝を痛めた利用者は、病院で歩行器を使っている人を見て、歩行器を使う決心を。これらの例を重ね、思いがけないきっかけが、利用者の思いや意向把握につながることを実感し、ケアプランにつなげている。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 介護計画作成の1例として、徘徊傾向が軽減しない利用者について、徘徊(外出願望)の項目を①外気に触れたい、②散歩がしたい、③ドライブがしたい等7つの項目に分け、介護計画に盛り込み、利用者の日々の様子を職員同士観察並びに確認し、援助につなげる。なお、作成に当たってはセンター方式の考え方を取り入れている。 | | |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 利用者の記録は、業務日誌とケースファイルに記されている。ケースファイルにはバイタルと介護計画の項目が明記され、できたか・できていないかのチェック以外にどうできたか等の詳細を書く自由記載欄を設け、日々の変化を記録。これらの記録を元に介護計画の見直しの情報としている。担当は一人の利用者に二人職員担当制をとっている。 | | |

ケアサポートセンター宝ヶ池

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|---|--|------|--|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 地元から訪問理・美容があり人気がある。訪問者、面会者で食事を希望される場合提供している。食事を共にしながらの会話等を大切にしている。医療に関しては地域の開業医とも連携し現在4人のかかりつけ医の往診を受けている。食料品等の買い付け時に利用者と外食し、ホームとは異なる環境の下の会話を大切にしている。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 複数のかかりつけ医の往診がある。必要とあらば、かかりつけ医の紹介もしている。また、高齢者の医療・疾患について、地元の開業医から指導を受ける機会もある。利用者は「難しいことを勉強してるんやなあ」と、9月には利用者の前で医師に話していただくことも考えている。受診には事業所の資料情報提供を行っている。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 訪問看護ステーションとの24時間オンコールの体制は整っているが、協力病院とは、そこまでできていない。ターミナルケアについての職員研修も十分ではない。入所の契約時においても、利用者・家族とのターミナルについての話しを交わすまでに至っていない。 | ○ | GHも終の住みかである。ターミナルは、利用者・家族にとって避けられない課題である。利用者・家族・職員・かかりつけ医を交え課題検討が望まれる。 |
| 職員間で | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 施設内に利用者の行事等の写真が多数掲示されているが、了解をとっている。一例としてトイレ誘導はさりげなくを心がけ、排泄を失敗した利用者が、自分の意思でリハビリをはずすまでの利用者の自発性を尊重するケアを職員間で共有し、取組まれている。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者は外出先で、喫茶店に入りコーヒーを飲むことを好まれる。職員も一緒に飲む。近所のコンビニへアイスクリームを買いに行く利用者に同行する。常に職員も利用者の行動に添うよう、利用者が少しでも寛げるよう工夫し、気遣っている。 | | |

ケアサポートセンター宝ヶ池

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|----|---|--|------|-----------------------------------|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 献立は利用者の嗜好、旬の食材を中心に職員が立てている。食材は近所のスーパーに利用者と共に買いに行く。調理に参加する利用者は3人、準備・後片付けに参加する利用者も。「家ではこんなことしたことない」と言いながら、男性利用者が庭で採れたキュウリの皮をむき、それが昼食に上がっている。おしゃべりしながら、ゆっくり食事されている。 | | |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 入浴は同姓介助、個浴で、一人ずつ湯を入れ替えている。2日に1回の入浴サイクルである。昼間入浴を拒否される利用者が、夜間入浴ならと言われれば個別対応をしている。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 部屋の掃除・洗濯をする利用者、盆栽の手入れをする利用者、月に3回の手芸教室、切り絵教室に参加される利用者、週1回の「生け花によるフラワーセラピー」は好評である。ボランティアによる電子ピアノ伴奏で、みんなが大声で歌をうたっておられる様子は、ホームの一体感を感じる光景である。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 利用者1人2人との散歩から、5分・10分の散歩まで、屋外で過ごすことをまず大事なことで取組まれている。外出やドライブ希望の利用者に、併設の小規模多機能事業所の送迎車の同乗を伺い、朝からドライブ気分にあたりたいといただく。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | ホームは2階にある。昼間は施錠していない。1階の引き戸は、開閉時に風鈴風の音が鳴る。防犯上夜間の施錠はしている。管理者はたとえ徘徊者がおられても、見守りを優先しオープンな施設運営を大切に、開設当初から職員に求め、合意されている。 | | |
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 消火器・火災感知器を設置。火災時には管理者・職員等、法人関係者への自動連絡システムを完備。1週間分の水・保存食を完備。避難訓練は夜間想定も実施済。地域の消防団との連携もできている。 | | |

ケアサポートセンター宝ヶ池

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|----|---|---|------|-----------------------------------|
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事摂取量を毎日記録。水分摂取量は必要のある利用者のみ実施。食事カロリーは1日1500カロリーを目安に看護師と担当職員が検討している。栄養摂取については法人の管理栄養士のチェックと、栄養面のアドバイスを受けている。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 訪問日は8月、廊下に涼しげな団扇が飾られている。職員の関係者から提供された絵画・切り絵・写真が壁にかけられ、ギャラリー風。玄関や職員の詰め所前には、古い小物入れや、ミシンが置かれ、また食堂には利用者の行事の写真が掲示され、利用者の居室のドアの横に、大きな石原裕次郎のポスターが張ってある。なにか懐かしい雰囲気が醸し出され、気持ちの和む空間である。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室はすべて和室である。エアコン以外は、ベッド・家具全て利用者の持ち込みである。したがってカーテン(防炎加工)をはじめ、それぞれの居室は利用者の個性ある居室になっている。 | | |